

現代における戦後社会福祉理論の有効性と課題

生成的・開発的側面への焦点化から

川崎医療福祉大学 直島 克樹 (No. 6815)

キーワード：地域福祉、生成・開発、文化

1. 研究目的

社会福祉の潮流の一つは、“地域福祉”の展開にあると考えねばならない。すでに社会福祉法第4条において地域福祉の推進が明示され、今後の社会福祉の方向性を検討した社会福祉基礎構造改革の柱として位置づけられている。この地域福祉について右田(2005:12)は、「地域福祉は地域社会を住民の生活の営みの場(単なる土地ではなく)であるとして、生活の形成過程で住民が福祉への目を開き、地域における計画や運営への参加をとおして、地域を基礎とする福祉とみずからの主体力の形成、さらに、あらたな共同社会を創造していく、固有の領域である」と整理している。右田の理解に従うならば、地域福祉とはその地域で生活していく人たちによって社会福祉が新たに生成され、さらにそこから新たな社会を生成・開発していく過程であるといえよう。その意味で地域福祉とは生成的かつ開発的なのである。

こういった状況の中で、社会福祉の理論はその有効性が問われ始めていると考えねばならない。これまで、社会福祉においていくつかの理論的試みが行われてきている。それらはそれぞれの時代状況や社会問題、あるいは研究者が有する問題意識や前提を反映したものであり、その前提の中で一定の有効性を持っていたと考えねばならない。地域福祉が求められる現代とは、生成的かつ開発的側面まで含めた社会福祉の理論的な展開の考察を深めていかなければならない時期にある。そうであるにも関わらず、その点に対する理論的検討はここまで不十分であると考えられる。

そこで本研究では、特に戦後の社会福祉理論の展開を概観し、現代までの動向を確認すると共に、そういった生成的かつ開発的側面まで含めた理論展開に対する課題を明らかにしていく。そして、社会福祉の理論展開に向けたこれからの方向性に対して、考察を加えていくことを目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究では分析に際し、文献研究の方法を用いる。特に、ここでは戦後の社会福祉理論の展開に絞って考察を深めていく。理論とは、基本的にその時代における社会状況を踏まえたものでもある。そこで戦後に絞った理論の展開を考察するため、ここでは大まかに時代区分を設定し、その特徴を明らかにする。すなわち、戦後における社会福祉の再編期、

高度経済成長などによる社会福祉の拡大期、福祉の見直しなどによる社会福祉の転換・改革期、社会福祉基礎構造改革以降の展開期である。こういった時代区分における

理論のそれぞれの特徴を明らかにし、生成的かつ開発的な側面への焦点化における課題を検討する。

3. 倫理的配慮

文献研究に関し、先行業績としての他説と自説との峻別を明確にするよう注意を払った。

4. 研究結果

それぞれの時代における理論として、例えば の時代には岡村重夫や孝橋正一、嶋田啓一郎などが、 の時代には一番ヶ瀬康子や真田是などが、 の時代には三浦丈夫や松井二郎、高田眞治などが、そして の時代には古川孝順による理論的取り組みが行われている。これらそれぞれに対する時代背景も含めた検討からの考察は、以下のような点としてまとめられる。

第一に、それぞれの理論に関する取り組みは、その構築された時代背景に基本的に沿ったものであるが、岡村理論に関しては、これまで指摘されてきているように、社会福祉の固有性を確立するという時代背景を持ちつつ、その時代のみ限定されない普遍的な性格も有しており、 から の時代すべてにおいて考えることのできる幅を持っている点が大きな特徴である。また、なぜ地域を問わねばならないのかその論理性を持つ理論として、現代の の時代における社会福祉の理論を検討していく基盤としても考えられなければならない。つまり、その普遍性を継承しつつ、より力動性を組み込んだ展開に向けての再考を必要とするのである。

第二に、これまでのすべての理論的な取り組みをつなぎ合わせることは基本的にここでの目的ではない。それぞれの理論には固有の前提があり、特に関係を意識しながら形成されてきたものばかりでもない。それぞれ焦点化している点が異なっていることは明らかである。

その一方で、生成的かつ開発的な側面に焦点を絞って考えるならば、そういった側面に対しては、 から の時代の一部の理論を通じて、人権や人格といったイデオロギーや文化まで含めた力動が働く必要性が理解できる。それは、螺旋構造としての変革の説明を可能にするものでもある。そのため、例えば社会福祉そのものの変革と発展を、人間の人格的な側面からの生活防衛というイデオロギーを視野に入れ説明した嶋田啓一郎による理論や、社会福祉の内発的な変革を、“文化”を重視し焦点化しようとした高田による理論などは、今後の理論展開として多くの示唆をもたらすものとして考えられるのである。特に、高田が示した内発的な発展は、これからの地域福祉の課題でもあり、社会福祉における生成・開発的な側面においては、“文化”が大きな観点になることが示唆されるのである。

引用：右田紀久恵（2005）『自治型地域福祉の理論』ミネルヴァ書房